



ICT\*AT\*AAC\*DX\*etc.

# GIGAびより



No.15  
発行 2025.1  
中原特別支援学校  
ICT教育支援部

## 電子黒板にまつわるエトセトラ

「電子黒板」とは「大型提示装置」の一種で、一般的には教育向けの機能のある、タッチパネル式の大型ディスプレイを指します。佐賀県では、平成23年度から県立学校での本格的な整備が行われており、本校でも1教室1台相当を設置しています。

さて、「教育の情報化に関する手引—追補版—（令和2年6月）」（文部科学省）には、電子黒板の活用について、以下のような記述があります。

### 第4章 教科等の指導におけるICTの活用

#### 第2節 ICTを効果的に活用した学習場面の分類例

##### 2. 学習場面に応じたICT活用の分類例

###### (1) 一斉学習（教師による教材の提示・A1）

例えば、教師が教材を提示する際に、大型提示装置や学習者用コンピュータに、画像、音声、動画などを拡大したり書き込みながら提示したりすることにより、学習課題等を効果的に提示・説明することができる。また、学習者用コンピュータや大型提示装置を用いて、動画・アニメーション・音声等を含む指導者用デジタル教科書・教材を提示することにより、子供たちの興味・関心の喚起につながるとともに、学習活動を焦点化し、子供たちの学習課題への理解を深めることができる。

| A 一斉学習   | B 個別学習  |  | C 協働学習  |   |
|--|---|--|---|---|
| <p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>  | <p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>                  |  | <p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>                           |   |
| <p><b>A1 教師による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>     | <p><b>B1 個に応じた学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度に応じた学習</p>  | <p><b>B2 調査活動</b></p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p> | <p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p> | <p><b>C2 協働での意見整理</b></p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>    |
| <p><b>B3 思考を深める学習</b></p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p> | <p><b>B4 表現・制作</b></p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> | <p><b>B5 家庭学習</b></p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>            | <p><b>C3 協働制作</b></p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>   | <p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p> |

「教育の情報化に関する手引—追補版—（令和2年6月）」（文部科学省）より

本校においても、各学部、各教育課程の内容に応じて、電子黒板の活用を行っています。通常の学校においては、指導者用デジタル教科書や授業支援ソフトを表示して授業を進めることが多いと思いますが、特別支援学校では、児童生徒に応じて、学習内容や表示量を調整したもの、各教科等を合わせた指導の内容に沿ったものを自作して表示することもあります。また、学習内容だけではなく、授業の見通しをもったり、行動の手掛かりにしたりするための「視覚支援」としての内容を表示することもあります。

★教科学習での例

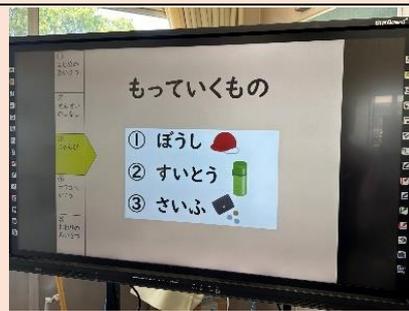


分かりやすいように、内容や量を調整して提示



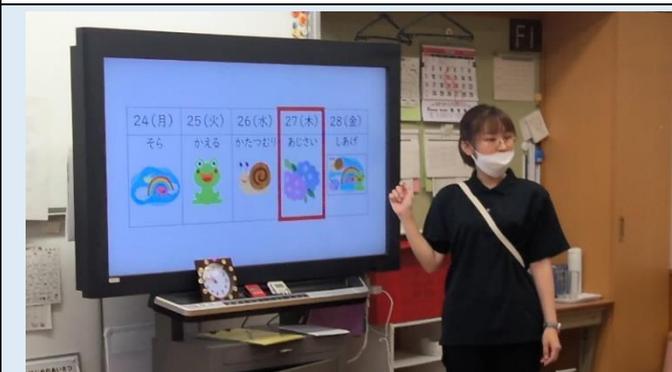
図工で制作する花火の動画の提示

★教科等を合わせた指導での例



学習内容に合わせて、教師が自作したものを提示（授業の流れや行動の手掛かりも提示されている）

一方で、スライド型の教材は、授業の進行とともに次々と切り替わり、学習の経過として残りにくい弱点があります。そのため、学習内容に応じて、電子黒板と板書（掲示）の役割分担を行う必要があります。



**電子黒板と板書で役割を分担する**

いろをつくってかこう

がんばりたいこと

1 くれよんでかく

2 いろをつくる

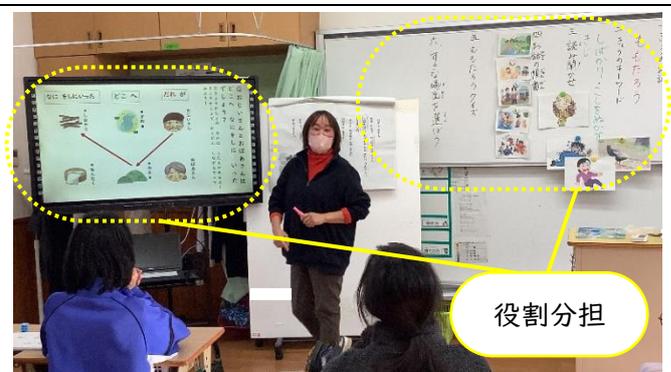
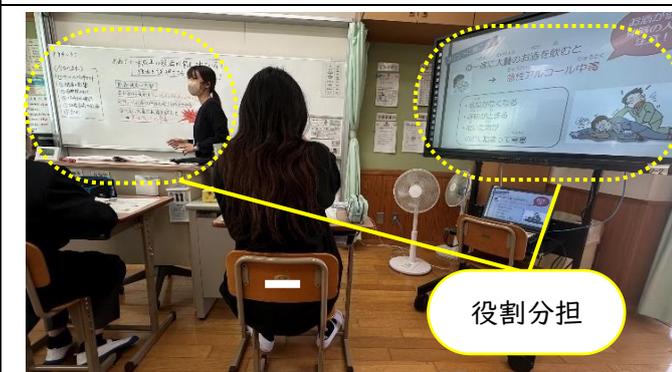
3 いろをつける

学習の道すじ（経過）を提示する

学習課題等を効果的に提示・説明する

初任者研究授業での助言例

デジタルの特性を生かし、「何を、どれだけ、どのように」電子黒板に提示するか。これもICTを活用した授業づくりの、大事な視点だと考えています。



**\*特別支援教育でのICT活用に係るご相談、研修依頼にも応じます\***

【TEL】 0942-94-3575

【Mail】 nakabarutokubetsushien@education.saga.jp

【窓口】 地域支援部 原野 ※お問い合わせの際に「ICT活用に係る相談」とお伝えください。